

別府ONSENアカデミア

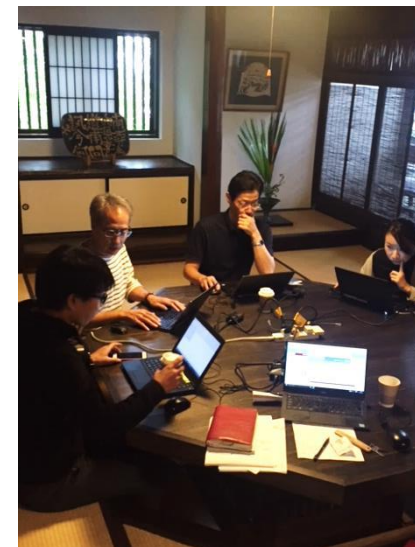
「ビジネスパーソンの業務効率化向上モニターツアー」

～ 参加報告書 ～

(2018年10月1日～10月5日、4泊5日)



日本航空株式会社
福岡空港支店
藤本 俊英
2018年10月15日

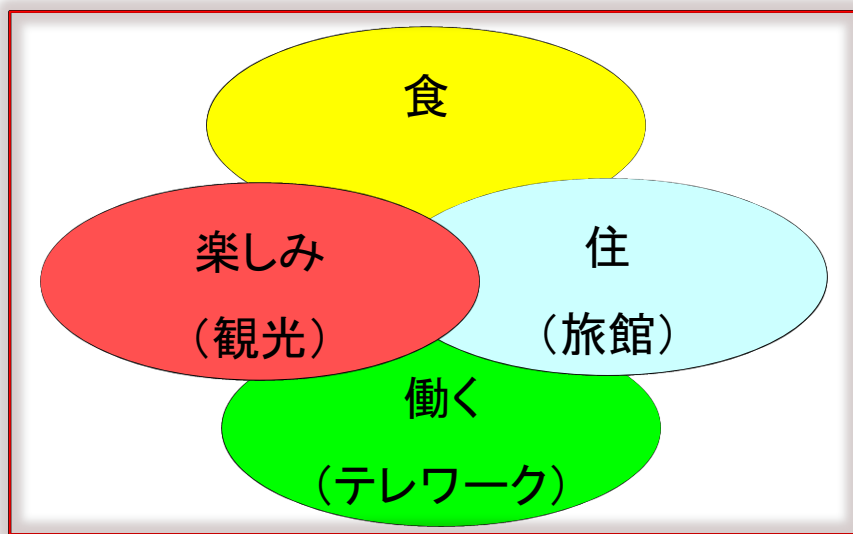


- 今般「モニターツアー」に参加しての総括（所感）は下記の通り。

一般論

今般のモニターツアー（所感・総括）

構成要素



* 比重バランスは個々人により異なる

期待効果

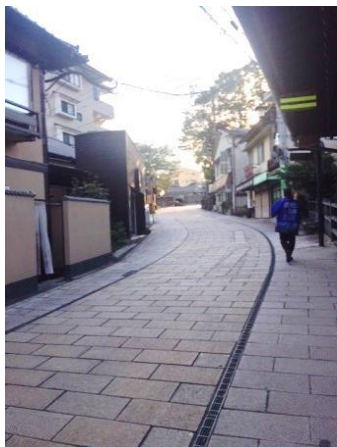
社員 (会社)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務効率化(働き方改革) ・ 健康増進(健康経営推進)
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地方創生(地域活性化) ・ 交流人口拡大

- 湯治場で有名な鉄輪温泉における「食＋観光＋仕事（テレワーク）」の組み合わせは効果的で、左下に記した期待効果を確実に実感できた5日間であった。
- 今後の働き方改革の推進に向けて、新たな市場（需要）を切り開く可能性を強く実感した。
- 一方で、旅行商品化に際しての留意点としては左上「構成要素」の比重で、個々のバランスの在り方については、参加者の置かれた環境、志向等が千差万別であることを考慮し、自由度を高め、参加者個々に旅程を選択させることが肝要であると感じた。
- 対象をビジネスパーソンとした場合、仕事の事を完全に忘れて余暇に没頭するのは現実的でなく、個人的には全旅程の半分程度をテレワークに割くのが心身両面においてベストと考える。

- 今般「モニターツアー」に参加しての、個別シーンでの所感は下記の通り。

所感

- 今般の旅程（5日間）は、先駆的な試みとしてモニターツアーの位置づけで企画されたことから、多くの名勝観光地を巡る一方で、**温泉巡りや仕事（テレワーク）に割く時間が極めて限定的**であった。
- 個人的には、朝夕で表情を変える鉄輪をゆっくり散策、様々な湯質を誇る温泉巡り等を楽しむ時間が欲しかった。



提言内容

解決策（案）

- 前項の総括（所感）で記した通り、旅行商品化に際しては**滞在期間中における自由度を高め、参加者個々に旅程を選択させることが肝要**である。
- 加えて、日々の職場での緊張感（ストレス）から解放し、心身共に健康な環境を創出すべく、観光含めて「過密」な旅程を極力避け、**「ゆったり」とした時間（空間）を意識**した旅行商品化が望まれる。
- 楽しみのひとつである「食」については、**地産地消の観点から地元特産品に接する機会を選択肢**に取り入れたい。具体的には、地元産品を楽しめる地元居酒屋などがビジネスパーソンには好まれると考える。
- 小職が考える理想の旅程は次項を参照。³

(ご参考) 理想の旅程

- 今般「モニターツアー」に参加しての気づきを踏まえた小職が考える**理想の旅程**は下記の通り。
- ビジネスパーソンを対象とした場合、夏季連続休暇（9日間等）を除き、平日5日間連続して職場を離れるのはハードルが高い。**当該スキームを実際に普及させていく上では、土日を絡めるのがポイント**と考える（＝その場合の懸念点は、宿泊コストの上昇でコスト増の見合いで判断）

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前	<ul style="list-style-type: none"> ● 各地 → 別府駅集合 	<ul style="list-style-type: none"> ● 鉄輪散策 ● 温泉散策（入浴） ● 朝食 	<ul style="list-style-type: none"> ● 鉄輪散策 ● 温泉散策（入浴） ● 朝食 	<ul style="list-style-type: none"> ● 鉄輪散策 ● 温泉散策（入浴） ● 朝食 	<ul style="list-style-type: none"> ● 鉄輪散策 ● 温泉散策（入浴） ● 朝食 ● 宿舍チェックアウト
午後	<ul style="list-style-type: none"> ● 宿舍チェックイン ● テレワーク ● 鉄輪散策 ● 温泉散策（入浴） 	<ul style="list-style-type: none"> ● テレワーク ● 昼食 ● 鉄輪散策 ● 温泉散策（入浴） 	<ul style="list-style-type: none"> ● テレワーク ● 昼食 ● 鉄輪散策 ● 温泉散策（入浴） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光 ● 鉄輪散策 ● 温泉散策（入浴） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光 ● 別府駅解散 → 各地
夕食	<ul style="list-style-type: none"> ● 夕食（宿舍旅館が用意） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 夕食（地獄蒸し体験、自炊） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 夕食（外食）（地元居酒屋など） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 夕食（外食）（地元居酒屋など） 	

個別報告 (滞在旅館：柳屋様)

- 今般「モニターツアー」でお世話になった「柳屋」様について、従前の宿泊客に加えて今後ワーケーションを主目的とする宿泊客を迎え、満足いただくための改善点としては下記の通り。

気付き

朝食

- 和洋中3種類、地獄蒸しの朝食は何れも見栄え、味含めて素晴らしかった。
- 一方で、連泊を伴うワーケーション宿泊客にとっては、毎朝食に高エネルギーを摂取することになり、健康増進の観点から工夫が必要と感じた（参考：今回の5日間で小職体重が+2Kg増えたことからの気付き）

提案内容

改善提案

- ワーケーション宿泊客に対しては、一般の宿泊客とは別の朝食（地獄蒸し）を提供する。
- 具体的なメニューは卵、豆腐、野菜の組み合わせによる質素なものとし、管理栄養士によるカロリー計算をし、毎食掲示することでワーケーション宿泊客に健康増進の意識付けを行う。

夕食

- 地獄蒸しを体験する自炊スタイルは、郷土文化を体得する上で貴重な機会であった。
- 一方で、自炊の際の食材調達、食器類の2点で工夫が必要と感じた。



- （食材調達）地元産の肉・魚・野菜をネットで注文、別府近郊の専門店から夕方迄に配達いただく仕組みを導入したい。
- （食器類）食事後の時間を散策、温泉入浴等に有効に活用したく、使捨ての皿・コップを使用したい。

- 今後、ワーケーションを広く普及させ、需要を拡大させていく上での課題と解決策（案）は下記の通り。

課題

- （認知度の低さ） 場所や時間に囚われない新しい働き方として観光地滞在＋仕事を組み合わせたワーケーションについては、残念ながら理念理想先行の状況で所属会社内でも実際に経験した者は少ない。
- （職場周囲の理解） 観光地に滞在しながら、合間で仕事をすることに對して、職場同僚からは奇異な目で見られ、十分理解を得られていた状況ではなかった。
- （費用の負担感、妥当性） 今般のモニターツアーが仮に10万円弱で旅行商品化された場合、働き方改革の一貫として自身でどこまで負担できるか、経済性の観点で何らかの手立てが必要と考える。

提言内容

解決策（案）

- 新たな交流人口の創出に向けて、行政と観光商工業者（宿泊・交通・飲食・観光地等）が協調し、広く情報を発信する。
- 発信に際しては、キャッチコピーを起用したい（例：熱量最大の街 かんなわ ～ 湯 & Your Workation ～）
- 行政と観光商工業者が協調し、行政主導で企業と「ワーケーション包括連携協定」を締結、企業内では働き方改革のひとつのメニューとして利用を推進する。
- 「ワーケーション包括連携協定」の項目として利用者に行政、企業双方から補助金を供出するスキームを構築し、企業は健康増進の観点で健康保険組合（健保）を絡ませることで利用者個人の負担額を極限まで軽減し、利用を促進する。